

## ■ 第11回『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』

～スポーツの多様な見方、考え方——クロス・スポーツ・インテリジェンス～

第1回「“運動が苦手な人”も楽しめる“ゆるスポ”に見るスポーツの多様性を考える」

講師：玉木正之氏（スポーツ評論家）× 澤田智洋氏（一般社団法人世界ゆるスポーツ協会代表）

日時：2017年6月17日（土）19:00～20:30

会場：神戸国際会館セミナーハウス

スポーツ界の知見豊かな方々を講師にお招きし、スポーツの在り方や人材育成のポイントを学ぶ『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』。早いもので11回目を迎えました。今年も全体のテーマは「クロス・スポーツ・インテリジェンス」。同じ競技・スポーツでも、見方・立場を変えれば、そこに様々な考え方や目指したい姿が見えてきます。それらに対談・鼎談形式で語り合っていたきながら、スポーツ・教育・ビジネスの現場で人材育成に関わる皆さんにとって「多様な見方」「新たな考え方」の発見に繋がればと開催している講座です。

今年も6月から月1度、3回に渡って開催する『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』。初回にあたる今回のテーマは「“運動が苦手な人”も楽しめる“ゆるスポ”に見るスポーツの多様性を考える」。昨年のリオ・パラリンピックに続く「スポーツの多様性」をテーマにしたプログラムです。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツへの関心、話題が高まる一方、忘れてならないのは「スポーツ弱者」の存在。「一般社団法人 世界ゆるスポーツ協会」代表の澤田氏は子どもの頃から運動が苦手だったことから、年齢や運動神経の善し悪し、障害の有無に関わらず誰でも楽しめる「優しいスポーツの創造」に取り組んでいます。今回は、その澤田氏と、『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』初回からご協力いただいているスポーツ評論家の玉木氏をお招きし、「スポーツは一部のエリートアスリートのものであるのではない」という想いのもと、改めてスポーツの多様性について考えてみました。

SCIX 理事・美齊津より挨拶の後、約50名の受講者達の拍手に迎えられながら玉木氏、澤田氏が登場。その後は玉木氏によるナビゲートで会は進行していきました。



まずは、玉木氏より澤田氏の紹介がされ、「ゆるスポ」とはどういったものか？ということを紹介すべく、今年で2回目の開催となる「ゆるスポ運動会」の映像が流されました。実際、玉木氏もこの現場をご覧になったとのことで、当日開催された競技の様子や参加者たちの楽しそうな姿を、画像と共に紹介。昨年、講師としてお迎えしたパラスポーツ写真家の越智氏が競技に興じる姿が

映し出される場面もあり、映像を見ながら、澤田氏がそれぞれの競技の意図や考案の裏側について語っていただきました。

そもそも、「ゆるスポ運動会」とは「スポーツ×遊園地」をテーマに東京で開催されてい



るイベントで、澤田氏が代表を務める「世界ゆるスポ協会」が提供する 20 種目の中から、「イモムシラグビー」や「ベビーバスケット」、「ブラックホール卓球」などをはじめ、様々な種目を老若男女が楽しむというものです。

競技種目はネーミングからして、とてもユニークですが、たとえば、「ブラックホール卓球」。これは、真ん中に穴の開いたラケットで卓球をするという競技。本来卓球というものは、スイートスポットと呼ばれるラケットの真ん中に当ててプレーする競技で、上手な人ほど真ん中にボールを当てるわけですが、そのスイートスポットに穴が開いているので、上手い人ほど打ち返すのが難しいというわけです。さらに、上手い人ほど、その穴が大

きくなるというルール。当然、穴にボールが入ってしまうわけです。ですが、その穴の部分にボールが入ってしまっても、うまく相手に打ち返せなかったとしても、周囲からは「ナイスホール！」という声が掛けられ、ミスをしてでも褒められるというユニークな仕組みになっています。

「ベビーバスケット」は、赤ちゃんに見立てたボールを優しくソ〜ッとパスをしてカゴにゴールするというもので、投げるなど荒っぽくボールを扱うと、ボールから赤ちゃんの泣き声がするようにボールに仕掛けがされています。赤ちゃんが泣くと、ボールは相手チームに渡るというルール。ママさん達が上手というのでも頷けます。



「ゾンビサッカー」は、ゾンビのマスクを付けて前が見えない状態で、音の鳴るボールでサッカーをするというもの。「イモムシラグビー」は身体にイモムシのような着ぐるみを付け、イモムシのように這いつくばってボールを追いかけて、繋ぎ、ゴールするというもの。

つまり、いずれも年齢や運動神経の善し悪しは関係なく楽しめるものであり、ゾンビサッカーやイモムシラグビーなどにおいては、視覚障害者や歩行障害のある人と一緒に楽しむことができるだけでなく、障害者が健常者に勝てる競技になっています。また、ゾンビラグビー体験者の声に「見えなくて怖かった」という感想が多いことから、障害者の気持ちを理解することにも繋がると澤田氏は言います。「ポップな入り口で、一緒に楽しみながら理解を深める」それが、「ゆるスポ」「ゆるスポ運動会」の目的です。

また、「太鼓の達人」という人気ゲームからヒントを得た「かたたいこ」は、肩にセンサーを取り付け、それを太鼓に見立てて、トントンと「太鼓の達人」同様、音楽に合わせて叩くというもで「ゲームをスポーツ化する」というコンセプトで考案されたそうです。「ゆるスポ運動会」では、スキンシップにも繋がるアイテムとして、親子、お孫さんとお爺ちゃん、お婆ちゃんに人気だったと紹介されました。このように、お年寄りにアプローチする「ゆるスポ」も数多く考案されていて、「こたつホッケー」などの映像も流され、そのユニークさに会場から笑いが漏れるシーンもありました。老人ホームでのリハビリにもなり、入居している老人だけでなく、介護従事者の負担軽減にも繋がるという興味深いお話もありました。

「ゲームをスポーツ化する」「遊び×スポーツ」という「ゆるスポ」の観点が、「日本の運動会発祥の原点に通ずる」と玉木氏が言及し、その後、話題は日本の運動会の歴史に。

時間とお金に余裕のある富裕層だけが遊び、スポーツをした当時の欧米文化に対し、日本は富裕層のみならず庶民でも「遊ぶ」という感覚を持ち合わせていたことが、日本初の運動会の種目にも影響していると玉木氏。ただ走って速さを競うだけではつまらないという発想から生まれた「パン食い競争」を例に日本の運動会の起源について語り、そこに「ゆるスポ」の原点があるのでは？と持論を展開。

さらに、「あらゆるものと接続しうるもの＝スポーツ」と澤田氏がコメント。それに玉木氏も興味を示した様子で、政治、経済、科学・・・あらゆるものとスポーツを結びつけても原稿が書けると玉木氏らしい視点で同調しました。

会の後半、玉木氏から「ゆるスポ運動会」の準備運動で行われた「ざっくり体操」に話が及び、受講者全員が立って、澤田氏の指示のもと実践してみるという試みもありました。この「ざっくり体操」、何がざっくりかという、指示がざっくりなんです。「肩～、足首～、上下～、押して～」と、何をどうするという指示ではなく、ざっくりとした指示のもと自由に動かすというもので、実際行った受講者の大半の動きが被るという現象も。「ゆる



スポ運動会」では、動きが被らないようにというミッションを与えて行こうそうです。

この「ざっくり体操」、発想の元は、障害者の疎外感。ラジオ体操は皆が同じ動き、でも障害者はできない、それがとても嫌だった・・・という障害者の体験談を元に考案したのだとか。この発想

のように、21世紀、この先の未来に向け、「Rule break, Rules make できる人材育成が重要。それにはスポーツが最適」という澤田氏のコメントに、玉木氏が、SCIX 理事長・故平尾誠二の前例を覆してきたエピソードやその精神を思い出し、その言葉に亡き平尾理事長を重

ねるという長きに渡り親交のあった玉木氏ならではのシーンも見られました。

スポーツの本質は「リアルファンタジー」、つまり、「生きることは辛い、しかし一時的に解き放たれることが大切であり、それがスポーツの本質」と澤田氏は語ります。それはスポーツの語源である「disport＝日常の労働から離れる」に通ずると玉木氏。「より高く、より速く、より強く」というオリンピック的価値観とは別に、誰もが楽しめるスポーツ、スポーツを楽しむことの大切さを、「より笑える」というテーマを念頭に置いた「ゆるスポ」を通して広めていきたいと澤田氏。

会の最後、受講者からの『『ゆるスポ』によってどんな世の中にしたいか？何を目指しているのか？』との問いに、「スポーツで世界を平和にする。一個人の5分、10分の平和を生み出し、それを続けることで個人の永続的な平和となり、世界平和にも繋がると信じている」との澤田氏の解答で会は締めくくられました。

誰もが楽しめるスポーツ、みんなで楽しめるスポーツ「ゆるスポ」がもっともっと世界に広まれば、本当に世界から戦争は無くなるかもしれない、皆が平和に暮らせる日が来るかもしれない、スポーツの可能性を改めて感じる事ができた会になったのではないかと思います。ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

今回は7月29日（土）。「コーチング・ジレンマ～その向き合い方と乗り越え方」をテーマに、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス准教授・東海林（とうかいりん）祐子氏と、バルセロナ五輪女子柔道52kg級銀メダリストで、アテネ五輪では日本人女性初のフランス代表柔道チームのコーチを務めた溝口紀子氏をお迎えしての開催です。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（レポート 中野里美）

スポーツ振興くじ助成事業

